

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果に関する研究

大阪地域の HIV 検査機関における MSM の受検動向

研究協力者：岳中美江（特定非営利活動法人 CHARM/財団法人エイズ予防財団）
市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

検査機関と共同で実施している調査を継続し、2009 年の質問紙協力者のうち、同性間の性的接觸を感染不安要因として受検した男性 123 人について検討した。基本属性、情報源、受検までの期間、受検や相談経験、受検動機、感染リスク認識、性行動などについて集計した結果を報告する。

A. 研究目的

MSM への予防介入による効果を受検行動の側面から評価するため、検査機関（大阪・土曜日常設 HIV 検査事業）と共同で調査を実施した。大阪・土曜日常設 HIV 検査は、特定非営利活動法人 CHARM が大阪府・大阪市から委託を受け、2009 年 9 月まで毎週土曜日午後に大阪市内で無料匿名 HIV/性感染症検査を実施していたものである。2008 年 5 月まで大阪市の堂山近隣会場で実施していたが、6 月から難波の ChotCAST なんばに移転した。

この検査機関を本研究の対象に選んだ理由は、MASH 大阪が活動している地域に位置していたこと、MASH 大阪がこの検査機関を広報・紹介していたこと、MASH 大阪が実施した臨時 HIV 抗体検査の終了後まもなく（2002 年 10 月）検査事業を開始したこと、検査相談の体制（質的内容）を充実する工夫がされていたこと、受検者に対して質問紙調査を実施していたことなどである。

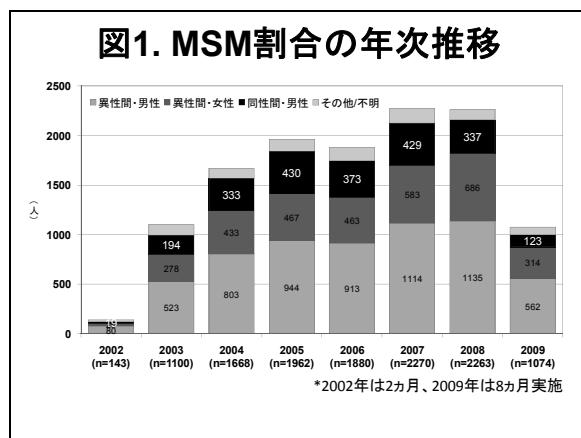
MSM の一定の利用があったこの検査機関における受検者動向の把握により、MASH 大阪の啓発対象層の HIV/性感染症の感染状況や予防行動の一部が観察できると思われる。本稿では 2009 年の MSM 受検者動向を報告する。

B. 研究方法

無記名自記式質問紙を受検者全員に配布し、採血日行程終了時に任意に記入してもらった。2009 年 1 月～9 月（4 月は検査実施なし）の受検者総数 1163 人のうち質問紙回答に協力が得られたのは 1074 人（有効回答率 92.3%）であった。質問紙協力者のうち、同性間の性的接觸を感染不安要因として受検した男性を MSM として集計した。

C. 研究結果

質問紙調査の協力者 1074 人のうち、同性間の性的接觸を感染不安要因として受検した男性（以下 MSM 受検者）は 123 人で、協力者中の MSM 割合は 11.5% であった。MSM 割合の年に推移は図 1 のとおりである。



2009年受検者の中HIV検査結果陽性と判定されたのは7人で、陽性割合は0.6%であった(図2)。7人全員が結果を受け取った。そのうち6人がMSMで、質問紙調査の回答率から推定したMSM受検者中の陽性者割合は4.5%であった(図3)。なお、陽性結果を受け取った7人全員にHIV診療拠点病院を紹介しており、これまでに6件の受診回答書の返信があった。また、梅毒検査を受け、かつアンケート回答が得られたMSM受検者117人のうち、TPHA陽性結果と判定されたのは11人(9.4%)であった。B型肝炎ウイルス抗原検査を受け、かつアンケート回答が得られたMSM受検者121人のうち、HBs抗原陽性結果と判定されたのは2人(1.7%)であった(図4)。

図2. 総受検者数とHIV陽性率の推移

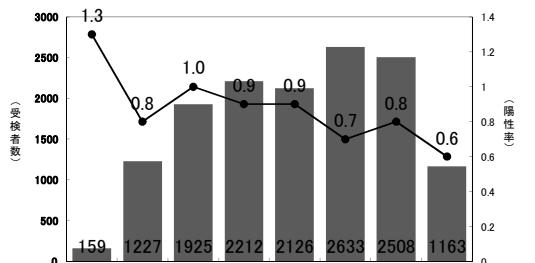


図3. 推定MSM受検者数とHIV陽性率

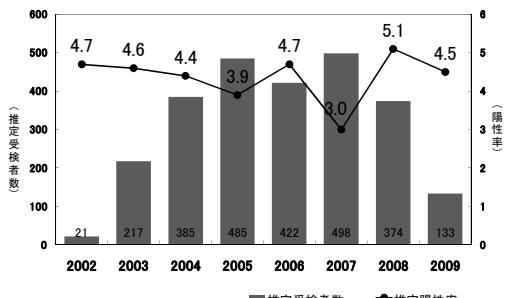
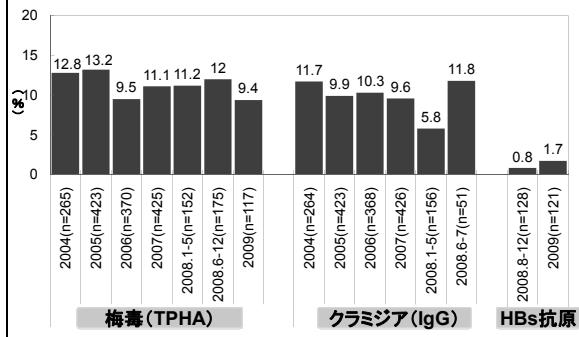


図4. 梅毒・クラミジア・B肝 陽性率



MSM受検者の年齢分布と居住地を表1に示した。平均年齢は33歳であった。年齢分布をみると、30歳代後半が最多(23%)、次いで30歳代前半(20%)、20歳代後半(19%)であり、過去6年間で初めて30歳代後半が最多となり、その割合が20%を超えた(図5)。居住地をみると、例年と変わらず近畿全域からの利用があり、72%が大阪、次いで兵庫であった(図6)。

図5. 年齢分布

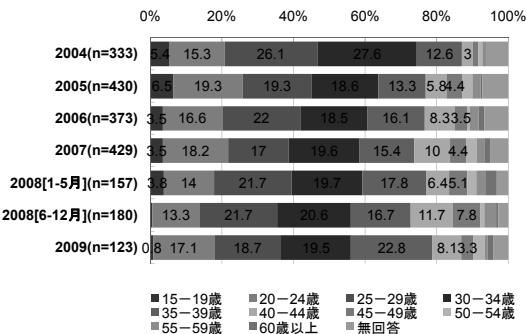
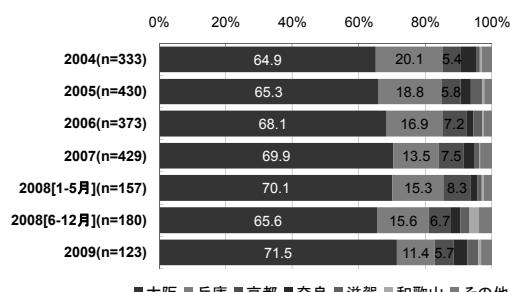
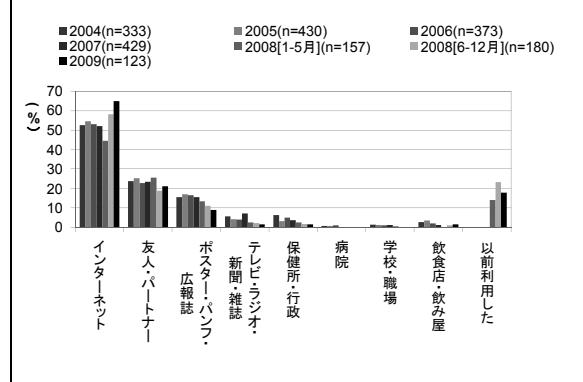


図6. 居住地



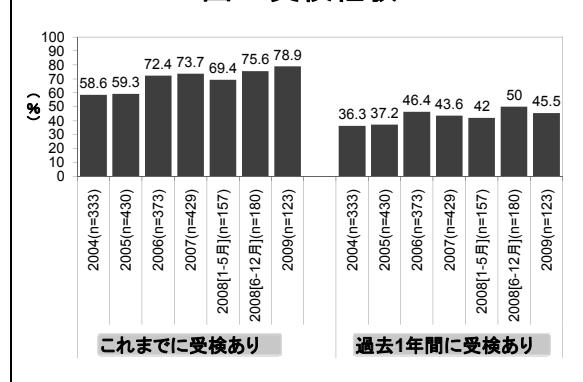
この検査機関を知った情報源（複数回答）として（表2）、インターネット利用が65%と例年と同様に最多で、過去6年間で最も高くなっていた。友人・パートナー（21%）がインターネットに次ぐ割合であった。次いで「以前利用した」が18%、ポスター・パンフ・広報誌が9%であった（図7）。

図7. 土曜検査の情報源



HIV検査受検経験率は（表2）、これまで（生涯）79%、および過去1年間46%であり、生涯受検割合は2008年よりも高い割合であった（図8）。過去1年間の受検場所は当土曜検査が最多（61%）、次いで保健所（14%）であった。土曜検査を利用した経験があったのは40%であった。

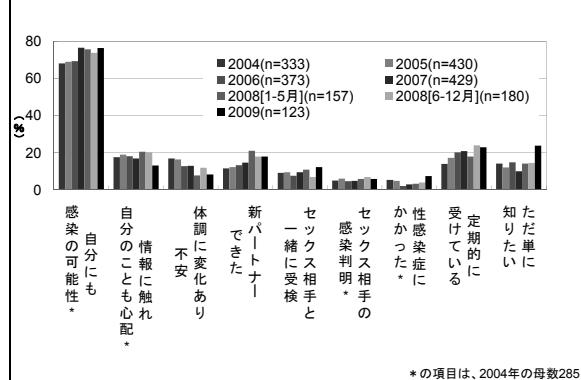
図8. 受検経験



受検動機については（表2）、「自分にも感染の可能性がある」が76%で例年同様に最も高率であった。次いで「ただ単に知りたい」と「定期的に受けている」が約23%、「新しいパートナーができた」18%、「情報に触れ自分のことも心配」13%であった。「定期的に受

けている」は年々増加傾向にあり、「ただ単に知りたい」は例年に比べて高い割合であった（図9）。これまでの受検経験別に受検動機をみると、経験に関わらず「自分にも可能性がある」が最も高い割合で、初回受検者では次いで「新しいパートナーができた」27%であり、受検経験者では次いで「定期的に受けている」29%であった。

図9. 受検動機



*の項目は、2004年の母数285

自身のHIV感染可能性について、37%が「可能性があると思う」、47%が「少し可能性があると思う」としており、例年と同じ傾向であった。

感染を心配する行為から受検までの期間は（表2）、30%が2ヶ月未満、64%が1年未満であり、昨年と同様に90%以上が1年未満に受検していた。2008年に比べ2ヶ月未満での受検が10%低い割合であった。生涯受検経験別に受検までの期間をみると、受検経験者は34%が2カ月未満、97%が1年未満であるのに対し、初回受検者は15%が2カ月未満、85%が1年未満で、15%は不安行為から1年以上経ってからの受検であった。なお、初回受検者は、友人や恋人などから聞いて土曜検査を知った人の割合が受検経験者よりも高かった。

HIV関連の相談をした経験について（表2）72%は経験がなかったが、一方で24%は検査時に相談した経験があり、例年と同様の傾向であった。

性行動についてみると（表3）、MSM受検者

の過去6ヶ月の性交経験率は97%で、その相手(複数回答)は、恋人など決まった相手64%、知人・友人とその場限り(2008年以降は「顔見知りと一回のみ」に変更)14%、バーやクラブで知り合った相手20%、ネット出会い系で知り合った相手29%、携帯出会い系で知り合った相手24%であった。携帯出会い系で知り合った相手が増加傾向にある(図10)。過去6ヶ月間のセックスにおけるコンドーム常用率(毎回使った)は、オーラルセックスでは6%(2008年10%)、 analセックスでは58%(2008年49%)であった(図11)。

図10. 過去6ヶ月間のセックスの相手

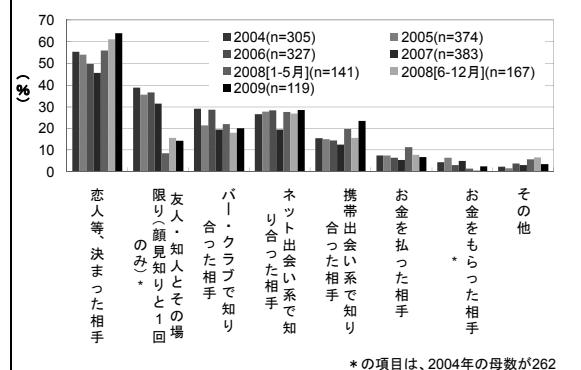
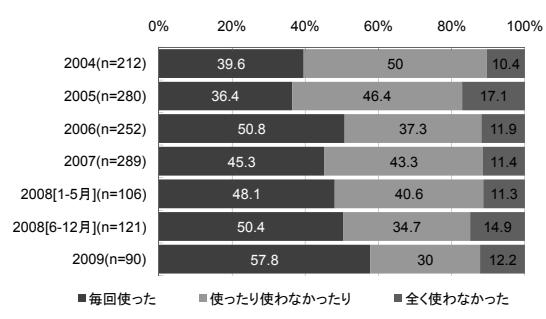


図11. 過去6ヶ月の analセックスでのコンドーム使用



生涯受検経験別(受検経験者と初回受検者)に過去6ヶ月間のanalセックスにおけるコンドーム常用率(毎回使った)をみると、受検経験者の60%、初回受検者の50%であり、受検経験者のほうが初回受検者よりコンドーム常用率は高かった。全く使わなかった割合は同様であった(図12)。また、過去1年間の受検経験有無別では、受検した人では常用

率71%、受検していない人では46%で、過去1年間の受検経験がある人での常用率が高かった(図13)。

図12. 過去6ヶ月 アナルセックスコンドーム使用【生涯受検経験別】

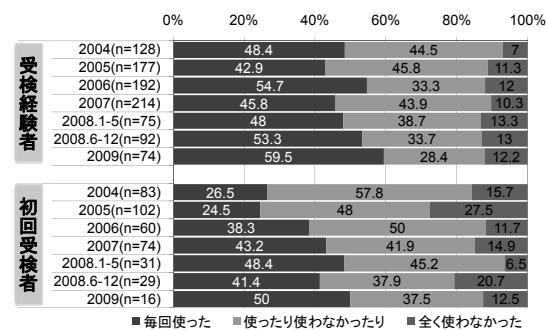
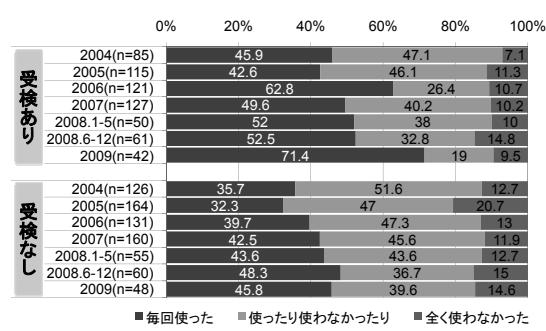
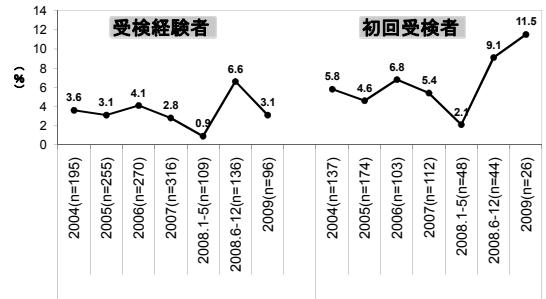


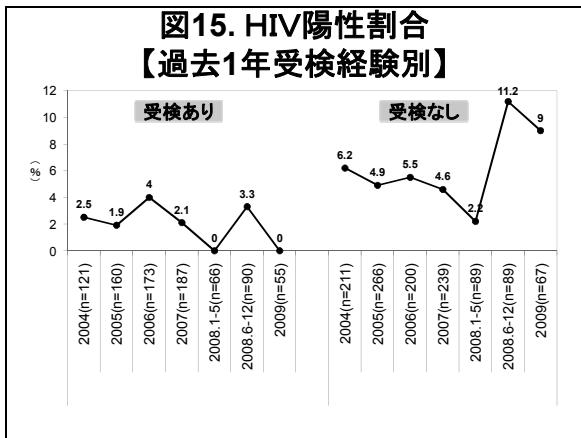
図13. 過去6ヶ月 アナルセックスコンドーム使用【過去1年受検経験別】



生涯受検経験別にみたHIV陽性割合は、初回受検者の11.5%、受検経験者の3.1%であった。例年初回受検者の陽性割合が受検経験者より高い傾向にある(図14)。なお、過去1年受検経験別のHIV陽性割合は、過去1年間に受検していない人の9%、受検した人の0%であった(図15)。

図14. HIV陽性割合【生涯受検経験別】





D. 考察

質問紙調査の協力者全体のうち MSM 受検者の実数および割合は 2008 年よりも減少した。推定 MSM 受検者中の HIV 陽性率は 4.5% と例年同様高かった。なお、梅田での実施期間中の MSM 受検者割合は 20%、難波での実施期間中の MSM 受検者割合は 12% であった。

年齢分布は、年々 10 歳代の割合が減り、30 歳代の割合が増えてきている傾向がみられた。情報源としては例年インターネット利用の割合が最も高かった。

定期的に受検していることを受検動機とした人が年々増加傾向にあり、生涯の受検経験率も増加傾向にある。しかし一方で、受検経験者における HIV 陽性割合よりも初回受検者における陽性割合のほうが例年高くなっている。また、過去 1 年間に受検した人よりも受検していない人の HIV 陽性率が例年高くなっている。過去 6 カ月のアルセックスにおけるコンドーム常用割合は、年々増加傾向にあり、生涯および過去 1 年間に受検していたほうがより高い傾向であった。また初回受検者のほうが、受検経験者よりも不安な行為から受検までの期間が長い傾向にあった。

生涯および過去 1 年間の受検経験者は、受検経験があるために HIV を身近に感じ、コンドームをより使用する傾向にあるのか、通常からコンドームを使用しているために、陽性結果を知る不安が高くなる検査を利用しやす

いのかを判断するのは困難だが、検査経験がない、もしくは過去の受検から時間が経っている人は、より at risk であるとすると、そういう人達が利用しやすい検査環境の整備が必要である。安心して検査相談を利用できることで、受検が HIV を身近に感じる機会になる、もしくは自らの感染リスクやコンドーム使用等の予防の工夫について意識化する機会になるという意味で、受検機会は予防行動のひとつになっている可能性も考えられる。

E. 結語

MSM 受検者の動向を把握するため大阪・土曜日常設 HIV 検査事業において調査を実施した。MSM 受検者の陽性割合や受検・予防行動の一部が明らかになり、大阪における MSM を対象にした予防啓発活動が MSM の受検に関する行動などに影響を及ぼしている可能性が示された。MASH 大阪の発行するコミュニティペーパーに当検査相談事業が掲載されていたことなどにより、一定割合の MSM 受検者の利用があったと考えられる。生涯および過去 1 年間の受検経験によってコンドーム使用行動や HIV 陽性割合に違いが見られ、MSM にとって安心して利用できる受検機会があることやその機会が対象層に向かって広報されることの重要性が再認識された。

F. 発表論文等

(国内学会発表)

- 1) 岳中美江、市川誠一、青木理恵子、榎本てる子、岡部正子、岡本学、白野倫徳、土居加寿子、松浦基夫、山中京子、藤山佳秀：大阪・土曜日常設 HIV 検査事業における MSM 受検者の動向、第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、2010 年、東京。
- 2) 松浦基夫、岳中美江、青木理恵子、榎本てる子、岡部正子、岡本学、白野倫徳、土居加寿子、山中京子、藤山佳秀、市川誠一：大阪土曜日常設 HIV 検査事業 (SAT) 7 年間

のまとめ～検査相談体制構築の成果と課題
～, 第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会,
2010 年, 東京.

表1 大阪土曜日常設検査におけるMSM受検者に関する概要(年別)

年齢階級	2004(n=333)		2005(n=430)		2006(n=373)		2007(n=429)		2008(n=337)		2008[1-5月](n=157)		2008[6-12月](n=80)		2009(n=123)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
15-19歳	18	5.4	28	6.5	13	3.5	15	3.5	7	2.1	6	3.8	1	0.6	1	0.8
20-24歳	51	15.3	83	19.3	62	16.6	78	18.2	46	13.6	22	14.0	24	13.3	21	17.1
25-29歳	87	26.1	83	19.3	82	22.0	73	17.0	73	21.7	34	21.7	39	21.7	23	18.7
30-34歳	92	27.6	80	18.6	69	18.5	84	19.6	68	20.2	31	19.7	37	20.6	24	19.5
35-39歳	42	12.6	57	13.3	60	16.1	66	15.4	58	17.2	28	17.8	30	16.7	28	22.8
40-44歳	10	3.0	25	5.8	31	8.3	43	10.0	31	9.2	10	6.4	21	11.7	10	8.1
45-49歳	5	1.5	19	4.4	13	3.5	19	4.4	22	6.5	8	5.1	14	7.8	4	3.3
50-54歳	4	1.2	12	2.8	3	0.8	13	3.0	6	1.8	4	2.5	2	1.1	4	3.3
55-59歳	4	1.2	10	2.3	9	2.4	10	2.3	10	3.0	4	2.5	6	3.3	1	0.8
60歳以上	0	0.0	2	0.5	6	1.6	6	1.4	6	1.8	5	3.2	1	0.6	2	1.6
無回答	20	6.0	31	7.2	25	6.7	22	5.1	10	3.0	5	3.2	5	2.8	5	4.1
居住地																
大阪	216	64.9	281	65.3	254	68.1	300	69.9	228	67.7	110	70.1	118	65.6	88	71.5
兵庫	67	20.1	81	18.8	63	16.9	58	13.5	52	15.4	24	15.3	28	15.6	14	11.4
京都	18	5.4	25	5.8	27	7.2	32	7.5	25	7.4	13	8.3	12	6.7	7	5.7
奈良	15	4.5	13	3.0	8	2.1	14	3.3	8	2.4	3	1.9	5	2.8	5	4.1
滋賀	4	1.2	15	3.5	10	2.7	6	1.4	7	2.1	2	1.3	5	2.8	4	3.3
和歌山	2	0.6	2	0.5	2	0.5	1	0.2	6	1.8	1	0.6	5	2.8	1	0.8
その他	10	3.0	10	2.3	9	2.4	15	3.5	11	3.3	4	2.5	7	3.9	4	3.3
無回答	1	0.3	3	0.7	0	0.0	3	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

*MSMは感染不安行為が同性間の性的接觸と回答した男性

*2009年は1-3、5-9月の8カ月

表2 大阪土曜日常設検査におけるMSM受検者に関する概要(年別)

	2004(n=333)			2005(n=430)			2006(n=373)			2007(n=429)			2008(n=337)			2006[(-5月)](n=157)			2008[(-12月)](n=180)			2009(n=123)		
	n	%	n	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
感染不安行為経験場所	日本国内	309	92.8	409	95.1	349	93.6	407	94.9	314	93.2	142	90.4	172	95.6	114	92.7							
国外	2	0.6	3	0.7	3	0.8	2	0.5	7	2.1	5	3.2	2	1.1	0	0								
国内と国外	21	6.3	18	4.2	19	5.1	18	4.2	15	4.5	10	6.4	5	2.8	9	5.0								
わからない	1	0.3	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0								
無回答	0	0.0	0	0.0	1	0.3	2	0.5	1	0.3	0	0.0	1	0.6	1	0.6								
感染不安行為からの期間	90日前満60日前満**	129	38.7	231	53.7	206	55.2	259	60.4	134	39.8	76	48.4	58	32.2	37	30.1							
1年以内(1年前満**)	165	49.5	160	37.2	141	37.8	146	34.0	178	52.8	73	46.5	105	58.3	79	64.2								
1年以上前	33	9.9	34	7.9	22	5.9	17	4.0	19	5.6	7	4.5	12	6.7	6	4.9								
無回答	6	1.8	5	1.2	4	1.1	7	1.6	6	1.8	1	0.6	5	2.8	1	0.8								
土曜検査を知った情報源(複数回答)	インターネット	175	52.6	235	54.7	198	53.1	224	52.2	175	51.9	70	44.6	105	58.3	80	65.0							
友人・恋人	79	23.7	109	25.3	85	22.8	101	23.5	74	22.0	40	25.5	34	18.9	26	21.1								
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	19	5.7	18	4.2	15	4.0	31	7.2	8	2.4	4	2.5	4	2.2	2	1.6								
ポスター・パンフ・広報誌	52	15.6	73	17.0	62	16.6	67	15.6	41	12.2	21	13.4	20	11.1	11	8.9								
保健所・行政	21	6.3	14	3.3	19	5.1	16	3.7	7	2.1	4	2.5	3	1.7	2	1.6								
病院	2	0.7	3	0.7	4	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0								
学校・職場	5	1.5	5	1.2	4	1.1	5	1.2	1	0.3	1	0.6	0	0.0	0	0.0								
飲食店・飲み屋	9	2.7	15	3.5	8	2.1	5	1.2	2	0.6	0	0.0	2	1.1	2	1.6								
受検動機(複数回答)	以前利用した**																							
自分にも感染の可能性*	194	68.1	297	69.1	259	69.4	329	76.7	252	74.8	119	75.8	133	73.9	94	76.4								
体調に変化あり感染の不安	56	16.8	70	16.3	47	12.6	55	12.8	33	9.8	12	7.6	21	11.7	10	8.1								
情報に触れ自分のことでも心配*	50	17.5	81	18.8	67	18.0	72	16.8	68	20.2	32	20.4	36	20.0	16	13.0								
セックス相手の感染判明*	14	4.9	26	6.0	17	4.6	20	4.7	21	6.2	9	5.7	12	6.7	7	5.7								
新しいパートナーができた	38	11.4	52	12.1	49	13.1	62	14.5	65	19.3	33	21	32	17.8	22	17.9								
セックス相手と一緒に性感染症にかかった*	15	5.3	20	4.7	7	1.9	12	2.8	12	3.6	5	3.2	7	3.9	9	7.3								
ただ単に知りたい	47	14.1	51	11.9	55	14.7	42	9.8	48	14.2	22	14.0	26	14.4	29	23.6								
定期的に受けている	46	13.8	74	17.2	75	20.1	89	20.7	71	21.1	28	17.8	43	23.9	28	22.8								
過去のHIV検査受検経験	これまで(生涯)	195	58.6	255	59.3	270	72.4	316	73.7	245	72.7	109	69.4	136	75.6	97	78.9							
過去1年間の受検場所(複数回答)	過去1年間	121	36.3	160	37.2	173	46.4	187	43.6	156	46.3	66	42.0	90	50.0	56	45.5							
病院	15	12.4	21	13.1	20	11.6	24	12.8	19	12.2	9	13.6	10	11.1	6	10.7								
保健所	44	36.4	38	23.8	32	18.5	36	19.3	22	14.1	10	15.2	12	13.3	8	14.3								
大阪府空間検査	18	14.9	11	6.9	7	4.0	8	4.3	4	2.6	2	3.0	2	2.2	2	3.6								
当土曜検査*	48	44.9	88	55.0	117	67.6	118	63.1	110	70.5	44	66.7	66	73.3	34	60.7								
大阪日曜即日検査**																								
その他	3	2.5	14	8.8	8	4.6	16	8.6	8	5.1	1	1.5	7	7.8	3	5.4								
HIV関連相談経験(複数回答)	経験なし	242	72.7	330	76.7	268	71.8	317	73.9	240	71.2	114	72.6	126	70.0	88	71.5							
電話・相談した	12	3.6	11	2.6	7	1.9	15	3.5	8	2.4	4	2.5	4	2.2	8	6.5								
保健所に相談した	8	2.4	8	1.9	6	1.6	7	1.6	10	3.0	3	1.9	7	3.9	2	1.6								
検査時に相談した	75	22.5	80	18.6	94	25.2	94	21.9	79	23.4	36	22.9	43	23.9	29	23.6								
自身のHIV感染の可能性*	まったくないと思う	1	0.4	7	1.6	5	1.3	2	0.5	2	0.6	1	0.6	1	0.6	4	3.3							
あまりないとと思う	40	14.0	40	14.0	214	49.8	171	45.8	206	48.0	162	48.1	20	44.6	22	12.2	13	10.6						
少し可能性があると思う	134	47.0	158	36.7	135	36.2	154	35.9	126	37.4	63	40.1	63	35.0	54	47.2								
可能性があると思う	107	37.5	11	2.6	7	1.9	14	3.3	5	1.5	3	1.9	2	1.1	3	2.4								
無回答	3	1.1	11	2.6	7	1.9	14	3.3	5	1.5	3	1.9	2	1.1	3	2.4								

*MSMは感染不安行為が同性間の性的接觸と回答した男性

**のついた項目:2004年については4月～12月の回答のみ(n=285)

・2009年は1-3、5-9月の8カ月

表3 大阪土曜日常設検査におけるMSM受検者に関する概要(年別)
～過去6ヶ月間の性行動について

MSMは感染リスクが高いが、同性間の性接觸を回収していない「無回答」を省いた性コソーム使用の%は、「行為をしていない」「無回答」を省いた性

**のついた項目:2004年については4月～12月の回答のみ

・2009年[は]1-3、5-9月の8ヵ月